

彼方 「かなた」

校長通信

H30.7.13

Vol.14

【期末保護者会で伝えなかったこと！】

平成最後の年度に、平成最悪の豪雨災害が起こってしまいました。まるで三・一一、東日本大震災後の映像と同じような映像が、デジヤブのように毎日テレビから流れています。そんな中で私たちは午前中に全校歌声交歓会を開催しました。開会式の中で、今回の西日本豪雨で亡くなられた多くの人々を悼み、全員で黙祷を捧げました。

「各学級で取り組んできた学級曲をみんなで心をひとつにし、気持ちを込めて一生懸命表現することも、私たちが今できることであり、その一生懸命さだけが人の心を動かすことができる」ということを伝えました。各学級ともその言葉に見合う一生懸命さで発表してくれました。三年生にとっては2学期に行なわれる合唱コンクールの前哨戦ということもあり、とても心に残る歌声を響かせてくれました。とても清々しい時間を共有できました。今を大切に『生きる』ということは、「自分以外の誰かの為に何ができるかを考え、今、自分でできることを一生懸命表現すること」です。全校歌声交歓会が持つ意味を歌声委員長が話してくれたのも心に残りました。さて、話を最初に戻しますが、今回の西日本豪雨で気になったことが二つあります。ひとつは、豪雨被害は、ある程度事前に予測ができるというのにとどめて二百六十二名もの亡くなられた方や行方不明の方が出てしまったのだろうか。そしてもう一つは、

事前に練習していれば、自分で考えて避難できたのだろうか。ということ。それは、三・一一の時に釜石の小中学生の犠牲者が、他の市の被害者と比べても本当にわずかしかなかったということ。考える予測できない、地震や津波でも対応することができたからです。事前予測がしやすい豪雨なら建物被害は仕方なくても亡くなったり、行方不明になつたりする人は絶対少なくなることができたはず。釜石の子供たちは、避難訓練を3年間真剣に取り組みました。それを通して「自分で考える。自分で判断する。自分から動く。自分の命は自分で守る」という基本を身に付けたのです。私たちが毎日学校で勉強することの本当の意味はここにあるのだと思います。自分で課題を把握し、解決策を考え、動き出すことなのです。それも仲間と支え合いながら、

周りを考えながら、相手のことを思いやりながら、心ひとつにし、力を合わせていくこと、こういうことを各教科の学習を通して学んでいくのです。でも残速ながらまだまだ子供たちは同じ状況下で自分や仲間を助けることは難しいような気がします。気象庁が特別警報を出してもすぐに動けない行政、行政からの指示がなければ自分の命を救うための行動すら起こさない住民、本当に腹立たしくなっています。「なぜ、動き出さないの?」「なぜできることを考えないの?」今在籍している七七二名の生徒が誰一人犠牲にならずに済むでしょうか。

一学期、私たちは授業改善を前面に押し立てて、取り組んできました。知識がなければ動けません。技能が低いままでも同じです。何より自分で考えよ

うとする力がなければ、知識や技能すら使わなくなってしまう。でも授業をA L型に変えていくことで主体的に学び、対話的に学び、活用するようになります。そうすれば我々が掲げている「学び合い・支え合う、心豊かでたくましい生徒」に近づいていくのです。それが自助にもつながっていくのだと思います。

保護者会ではお話しできませんでしたが、保護者の皆さんにお願いです。長い夏休みをどのように過ごすのがいいのか休み前にじっくり考え、話し合う時間を作って欲しいと思います。私たち大人が、中学生の成長のためにできることは、「どうしたいの?」「どうすればいいの?」「何のためにそうするの?」「本当にやりたいことは何?」「誰の為?」「何のため?」「何からはじめるの?」と考えを聞き続け、動き出すまで待つことだと思います。決して指示や命令だけで動いたり、かっこいい動きだけを正解にしたりしてはならないのです!

「知覚動考」という言葉があります。知ること、覚えること、動くこと、考えること、この四つが大切だという教えです。でもある人によれば、その四つの中で日本人が一番苦手なのが「動」だと言うのです。警報を聞いてから「ヤバイ!」と考えて、その場に座り込んでしまう子ども達にしたくはありません。「知覚動考」は、「ともかく動こう」と読むのだそうです。適切に判断し、動ける子供に育てていかなければならないと思います。

一学期間、ご理解とご協力、本当にありがとうございました!